

# 令和5年度 小学生すくすくウォッチの結果と分析について

実施日：令和5年4月17日（月）～4月25日（火） 八尾市教育委員会

## 1. 令和5年度小学生すくすくウォッチの概要について

### (1) 目的

- 子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実に付けることを目的とする。

### (2) 対象

小学校第5・6学年、義務教育学校前期課程第5・6年生

### (3) 内容

#### ●教科に関する問題

小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5年生：国語・算数・理科・教科横断型問題

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6年生：理科・教科横断型問題

#### ●児童アンケート

児童自身の目標に向かって頑張る力、気持ちをコントロールする力、人と関わる力、次の学びや生活にいかす力、好奇心等に関する内容や、学習状況、学級や授業等に関する意識等のアンケート

#### ●教員アンケート

教員自身の授業や指導、学校や学級の様子や取組み等に関するアンケート

### (4) 調査結果の取り扱いに関する配慮事項

- テスト及びアンケート結果については、本テストの趣旨・目的を達成するため、適切に取り扱うものとする。

## 2. 八尾市の調査結果について

### (1) 小学生すくすくウォッチを行った学校数と児童数

- 市立小学校27校、義務教育学校前期課程：第5学年

(国語2,051名 算数2,052名 理科2,062名 教科横断型問題2,054名)

- 市立小学校27校、義務教育学校前期課程：第6学年 (理科2,069名 教科横断型問題2,068名)

### (2) 児童への個人票（ウォッチシート）の返却日

返却基準日 令和5年9月1日～令和5年9月8日

### (3) 学力に関するテスト結果について

#### <第5学年（国語・算数・理科）の正答率比較>

	平均正答率(%)		対大阪府比	
	八尾市	大阪府	R5	R4
国語	77.5	78.3	0.99	0.96
算数	36.0	37.5	0.96	0.94
理科	59.3	62.3	0.95	0.97
理科(6年生)	70.7	73.1	0.97	0.96

#### <第6学年（理科）の正答率比較>

	平均正答率(%)		対大阪府比	
	八尾市	大阪府	R5	R4
5年	65.6	67.1	0.98	0.95
6年	72.1	75.6	0.95	0.96
5・6年	68.8	71.3	0.96	0.96

#### <教科横断型問題（第5・6学年）の正答率比較>

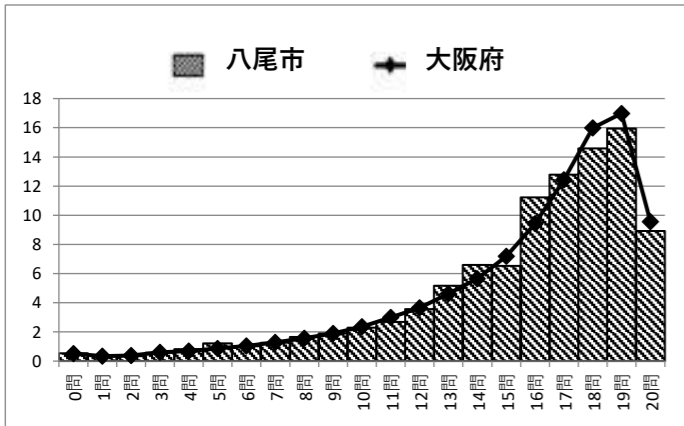
	平均正答率(%)		対大阪府比	
	八尾市	大阪府	R5	R4
5年	65.6	67.1	0.98	0.95
6年	72.1	75.6	0.95	0.96
5・6年	68.8	71.3	0.96	0.96

#### <同一集団（令和4年度5年生と令和5年度6年生）における教科横断型問題の正答率比較>

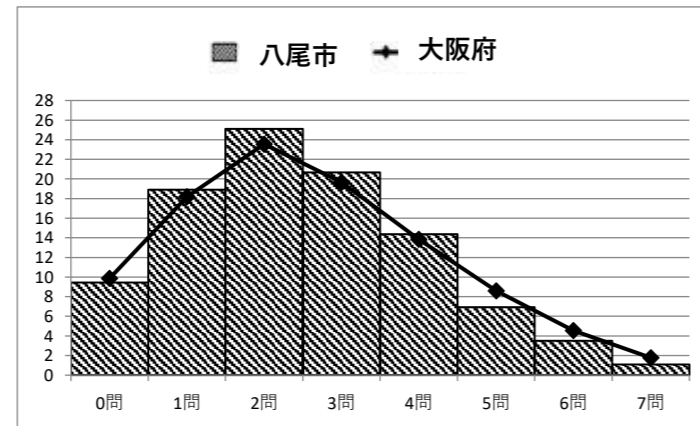
	R4年度5年	R5年度6年
平均正答率(%)	56.8	72.1
対大阪府比	0.95	0.95

## 3. 結果分析について

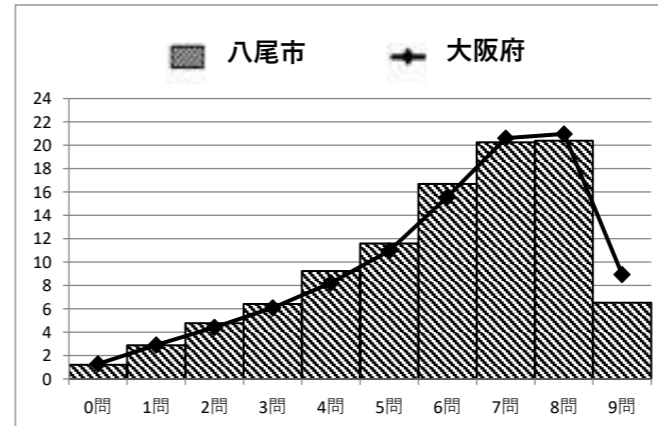
国語（第5学年）



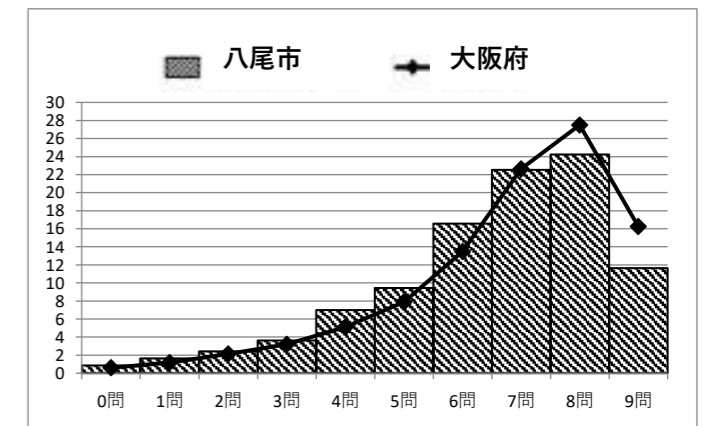
算数（第5学年）



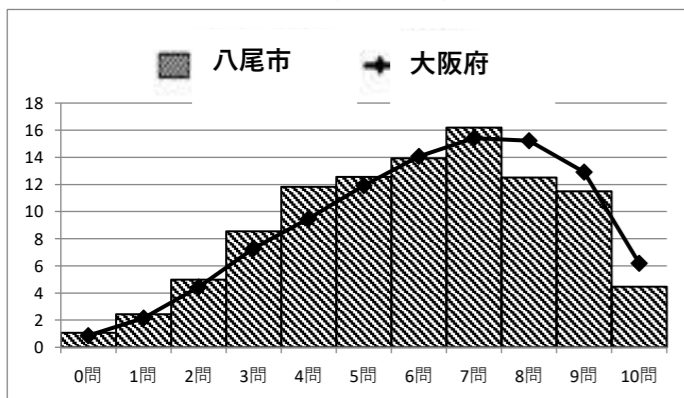
教科横断型問題（第5学年）



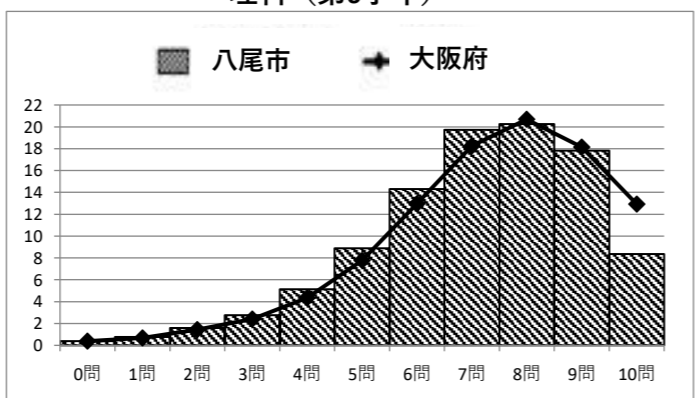
教科横断型問題（第6学年）



理科（第5学年）



理科（第6学年）



### 【国語】

- 文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書くことができています。
- ◆文と文の意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文で書くことに課題がある。

### 【算数】

- 1日に進めたページを表す棒グラフと、残りのページ数を表す折れ線グラフのそれぞれから読み取ることができる内容を、正しく理解できています。
- ◆2種類のチケットの代金の違いを比べる際に割合を使うことを理解し、二つの数量の関係を、倍を使って表すことに課題がある。

### 【5年理科】

- 季節による植物の成長の違いを理解できています。
- ◆乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解することに課題がある。

### 【6年理科】

- 月の形の名称についてある程度理解できています。
- ◆方位磁針の正しい使い方を理解することに課題がある。

### 【教科横断型問題(わくわく問題)】

#### 【観点】

- 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえることができる程度までできている。
- ◆図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考えることに課題がある。

#### 【問題をとらえる】

- 文章や会話から読み取ることができる程度までできている。
- ◆図や表から読み取ることによって課題がある。

#### 【伝える】

- 自身で考えたことを伝えることができる程度までできている。
- ◆資料の情報を整理して伝えることに課題がある。

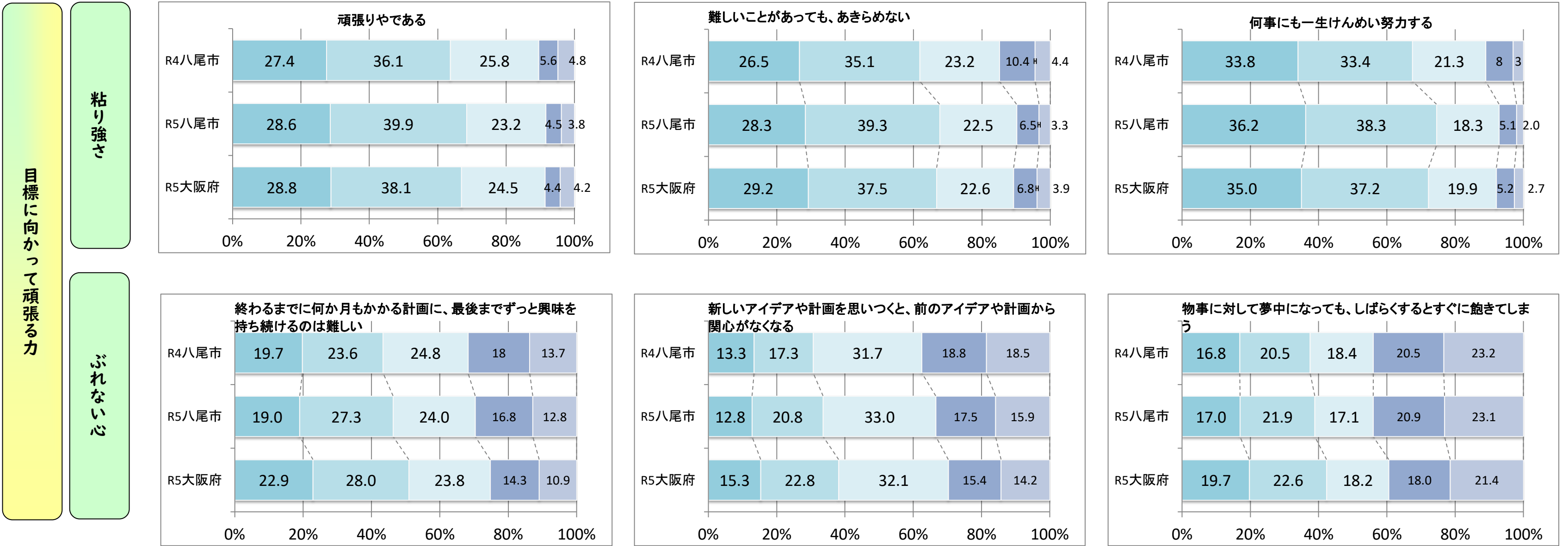
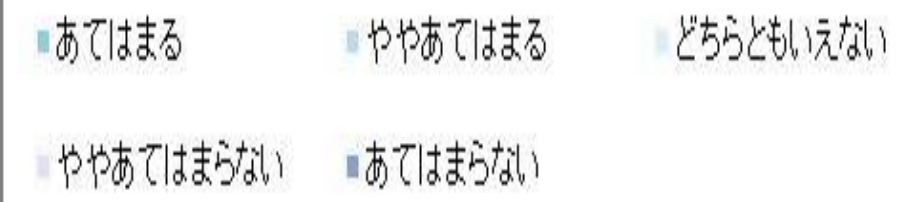
#### 【問題形式】

- 選択・図表問題がある程度できている。
- ◆記述問題に課題がある。

# 令和5年度 小学生すくすくウォッチ 児童アンケート結果について（未来に向かう力）

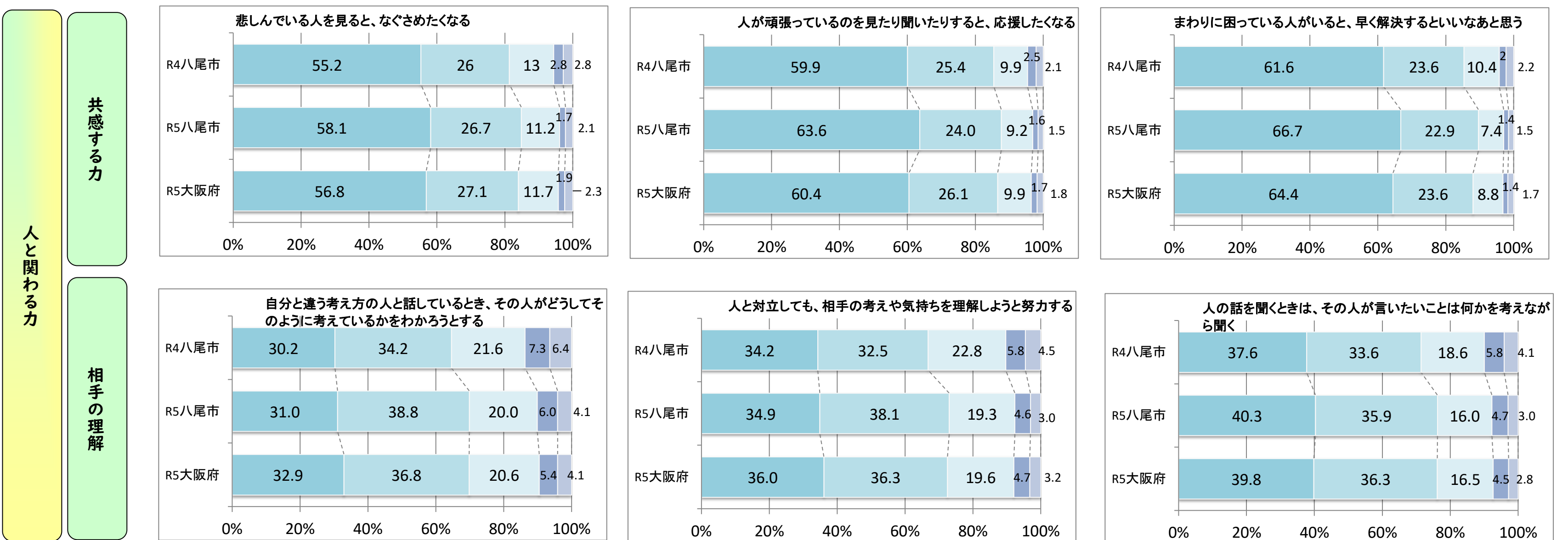
## <児童アンケートについて>

※グラフ内の数値は、無回答はデータに反映していないため、合計値は100にならない場合がある。  
 ※74設問のうち、「未来に向かう力」（「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」、「好奇心」）に関わる項目を中心に記載している。



## 【目標に向かって頑張る力について】

- 「粘り強さ」に係る3つの設問については、肯定的な回答が全て大阪府の平均よりも高い傾向が見られた。また、昨年度と比較すると肯定的に回答した子どもの割合も全て増加した。
- 「ぶれない心」に係る3つの設問については、肯定的な回答が全て大阪府の平均よりも高い傾向が見られた。また、「終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味を持ち続けるのは難しい」「新しいアイデアや計画を思いつくと、前のアイデアや計画から関心がなくなる」については、昨年度と比較すると肯定的に回答した子どもの割合は増加した。
- ◎教員アンケート「児童一人ひとりに1年間の目標を考えさせる取組みをしている」「学級全体で目標を立てて挑戦する取組みをしている」の肯定的な回答の割合が昨年度から増加していることから、子どもたちがチャレンジしようという気持ちを持つことができる環境づくりができています。



## 【人と関わる力について】

- 「共感する力」に係る3つの設問については、肯定的な回答が全て大阪府の平均よりも高い値を示した。また、昨年度と比較すると肯定的に回答した子どもの割合も全て増加した。また、すべての設問で肯定的な回答が8割を超えた。
- 「相手の理解」に係る3つの設問については、肯定的な回答が全て大阪府の平均よりも高い値を示した。また、昨年度と比較すると肯定的に回答した子どもの割合も全て増加した。
- ◎教員アンケート「児童一人ひとりのよいところを認めたり、励ましたりする言葉かけをしている」「少数意見であっても大切にするように指導している」「困っているときは互いに助け合う具体的な指導をしている」「友だちのよいところを、児童が互いに認め合えるような機会を作っている」の肯定的な回答の割合が昨年度から増加していることから、子どもたちの人と関わる力の育成ができています。

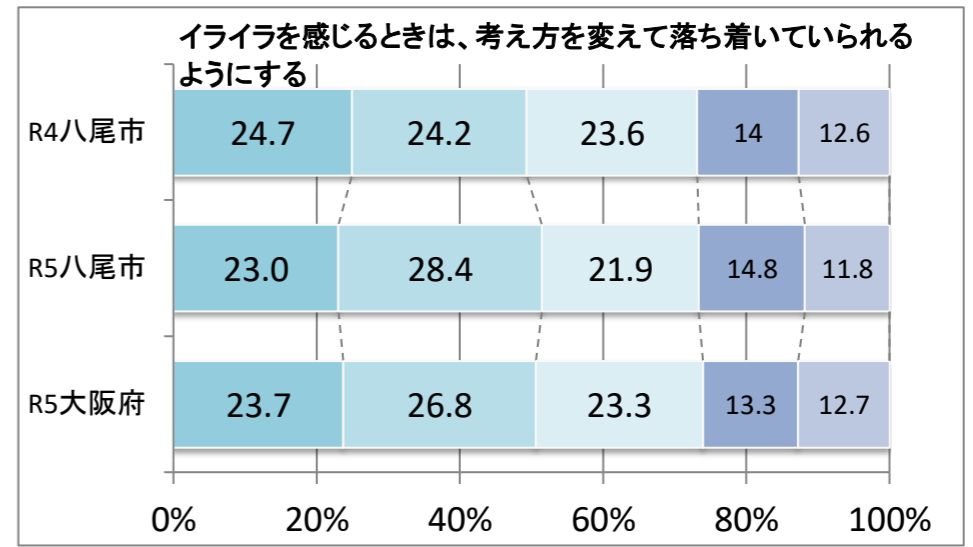
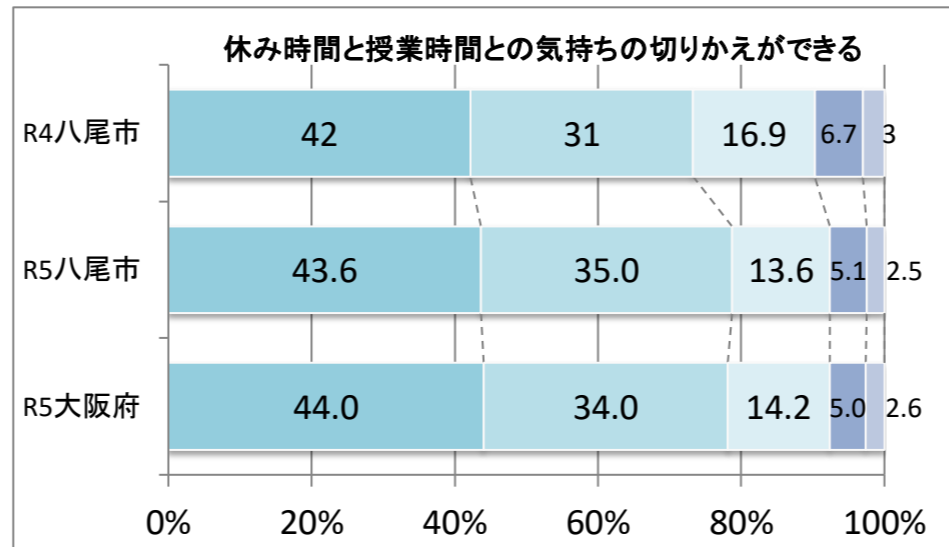
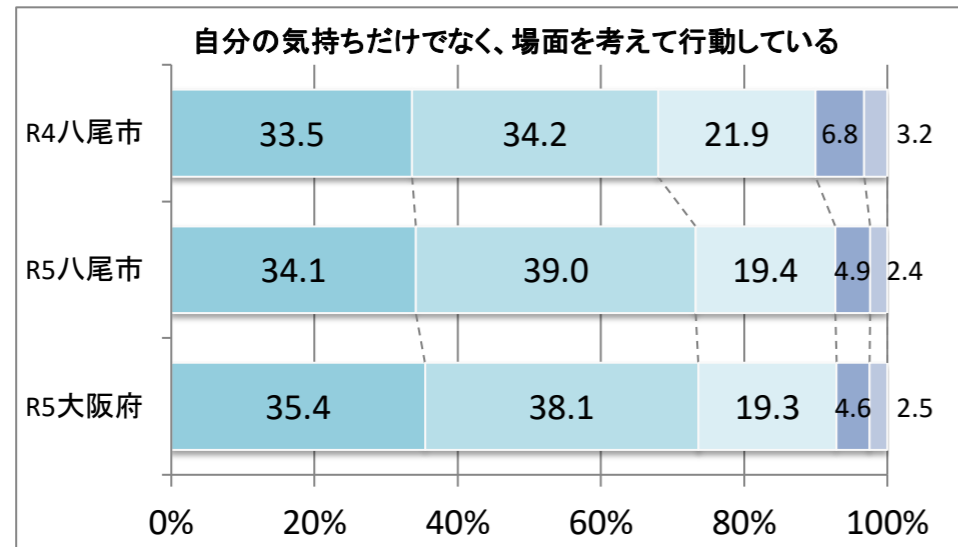


# 令和5年度 小学生すくすくウォッチ

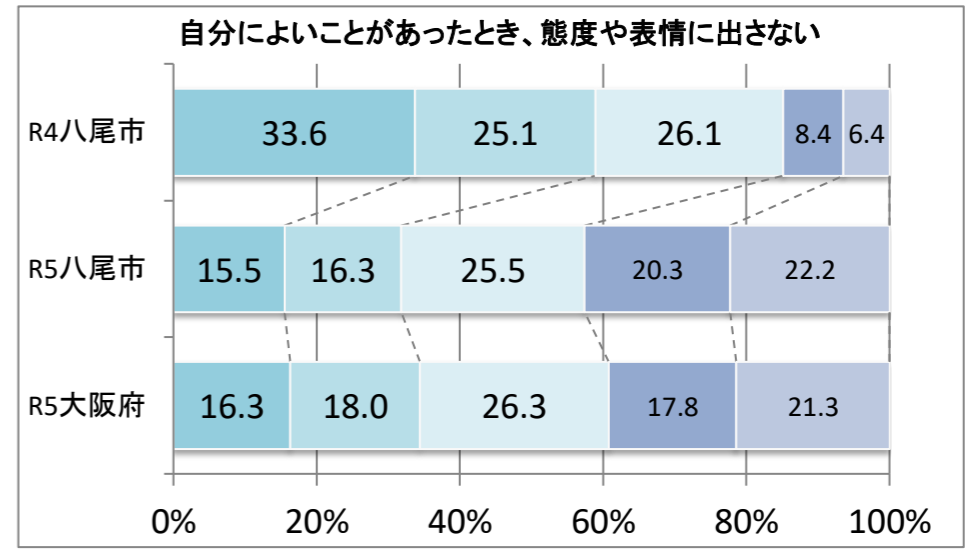
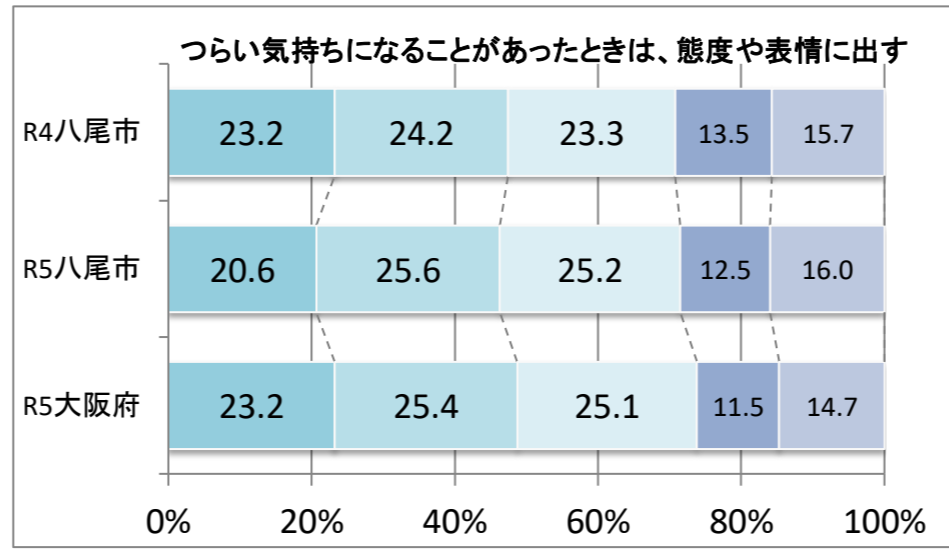
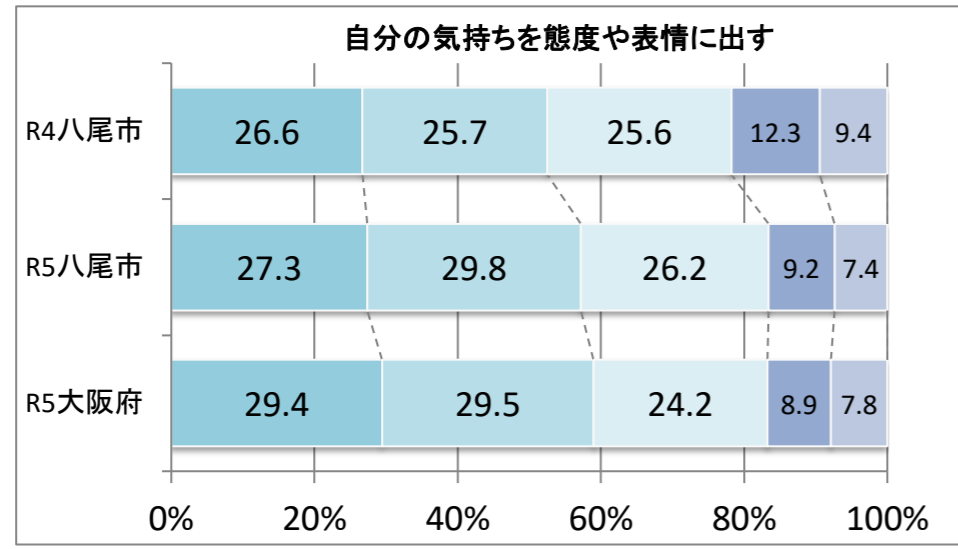
# 児童アンケート結果について（未来に向かう力）

気持ちをコントロールする力

切り替え



落ち着き

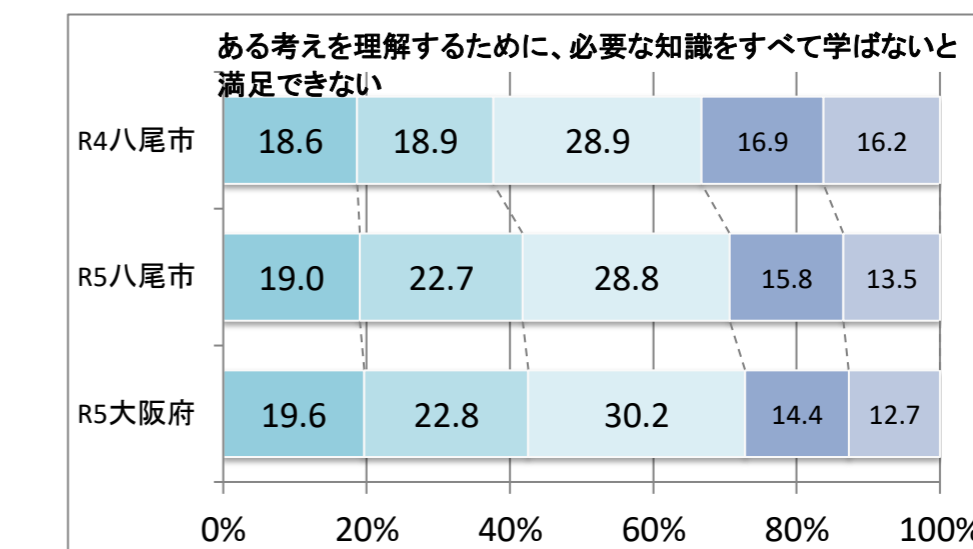
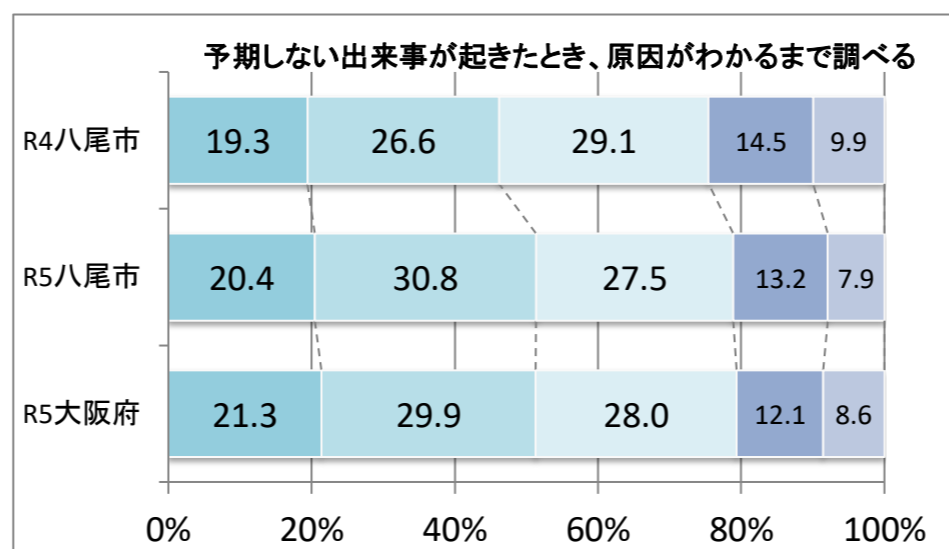
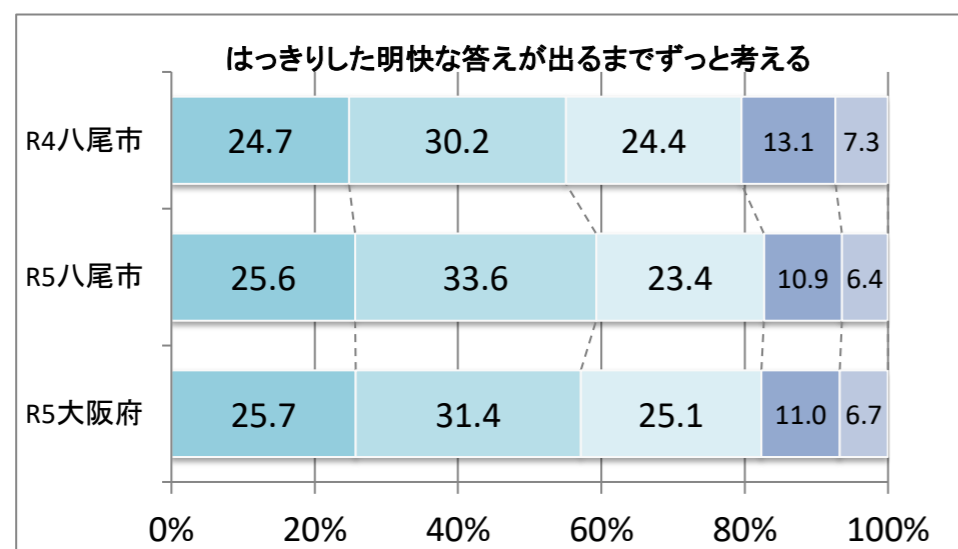
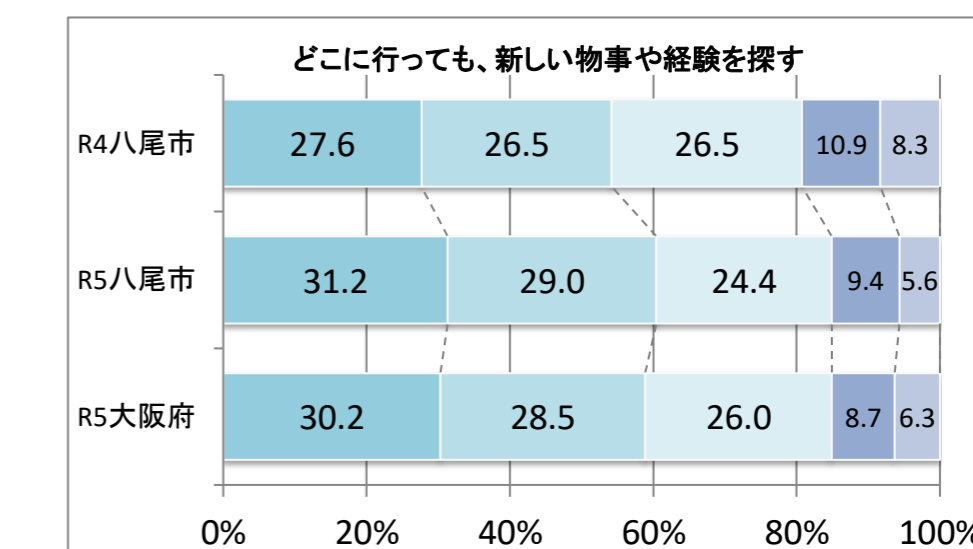
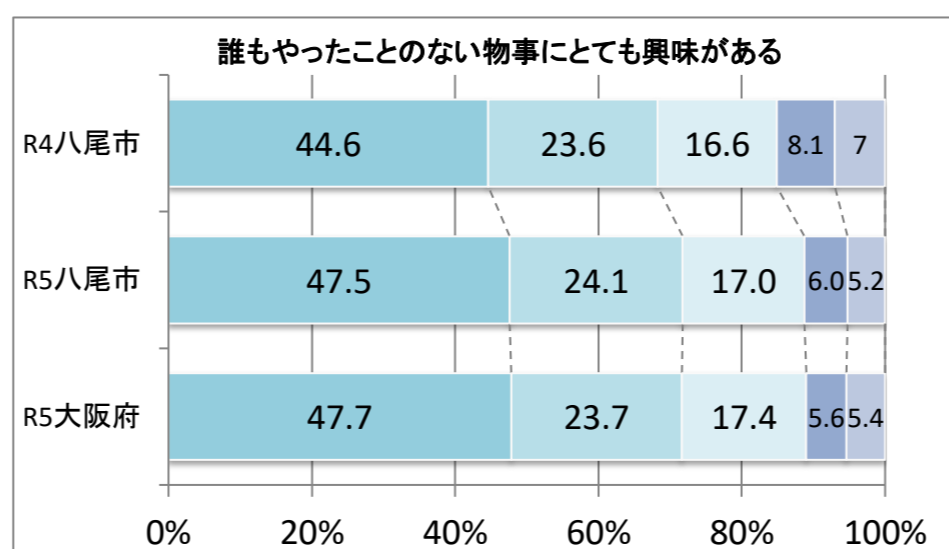
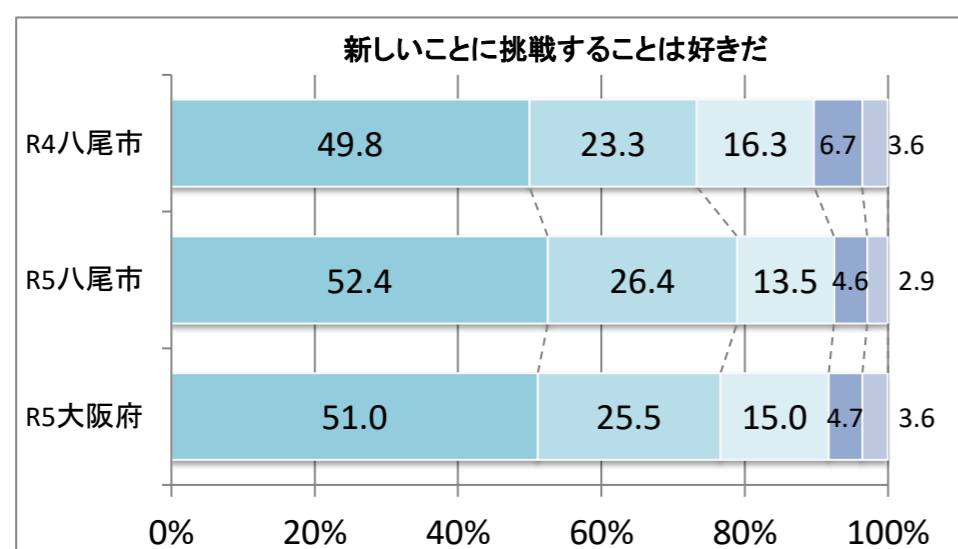


## 【気持ちをコントロールする力について】

- 「切り替え」に係る3つの設問のすべての項目において昨年度よりも肯定的に回答した子どもの割合が増加した。
- ◆ 「切り替え」に係る設問のうち、「自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している」については大阪府の平均よりも低い傾向が見られた。
- 「落ち着き」に係る設問のうち、「自分の気持ちを態度や表情に出す」「つらい気持ちになることがあったときは、態度や表情に出す」については、「出す」と回答した子ども割合は大阪府の平均よりも低い値を示した。
- ◎ 教員アンケート「児童一人ひとりのよいところを認めたり、励ましたりする言葉かけをしている」の肯定的な回答の割合が昨年度から増加していることから、子どもたちが安心して学校で過ごすことができている。「したい、したくない」等といった自分の気持ちをコントロールし、ルールに合わせて行動をする経験の積み重ねができている。

色々なことへの興味や関心

自分の疑問に対する答えを求める力



## 【好奇心について】

- 「色々なことへの興味や関心」に係る3つの設問については、全て肯定的な回答の割合が大阪府の平均よりも高い値を示した。また、昨年度と比較すると肯定的に回答した子どもの割合も全て増加した。
- 「自分の疑問に対する答えを求める力」に係る3つの設問について、昨年度と比較すると全て肯定的に回答した子どもの割合が増加した。「はっきりした明快な答えが出るまでずっと考える」については肯定的な回答の割合が、大阪府の平均よりも高い値を示した。
- ◆ 「自分の疑問に対する答えを求める力」に係る設問のうち、「ある考えを理解するために、必要な知識をすべて学ばないと満足できない」については大阪府の平均よりも低い傾向が見られた。
- ◎ 教員アンケート「児童の学習意欲の向上を図るために、導入を工夫していますか」の肯定的な回答の割合が昨年度から増加していることから、子どもたちの「やってみたい」「なんでだろう」を引き出すことができる授業づくりができている。